

後悔しない自動車保険の補償チェックリスト

保険料だけで決めない。補償選びの5つの確認ポイント

このレポートで確認できること -

更新前・見積もり前に、事故のあと困りやすい補償の抜けを5項目で確認できます。

読む前に

自動車保険は、事故が起きてから内容を変えることはできません。保険料の安さだけでなく、誰が運転するか、誰を守るか、事故のあとに何に困るかの順に確認することが大切です。

一般的な確認の目安としてお使いください。補償の対象・支払条件・特約名は、保険会社や契約内容で異なります。

まず全体像を確認しましょう

自賠責保険は、事故の相手方の人身損害が対象で、補償額にも上限があります。相手の車や建物などの損害、自分や同乗者のケガ、愛車の修理費は対象外です。任意保険でどこまで備えるかを確認しましょう。

確認ポイント	何を確認するか
1. 運転する人の範囲	年齢条件・運転者限定が、実際に運転する人に合っているか
2. 相手への賠償	対人・対物賠償が、十分な金額になっているか
3. 自分と同乗者のケガ	人身傷害の対象範囲と金額が、家計と家族構成に合っているか
4. 愛車の損害	車両保険の要否・補償範囲・自己負担額を理解しているか
5. 特約と事故後の支援	弁護士特約・個人賠償・ロードサービス・代車を確認したか

この5つを確認してから複数社を比較すると、保険料だけでなく、必要な補償を同じ条件で比べられます。

1. 運転する人の範囲と年齢条件は合っていますか？

最初に確認したいのは、実際にハンドルを握る人が補償の対象になっているかです。補償内容が十分でも、運転していた人が契約条件から外れていれば、事故時に補償を受けられないことがあります。

確認すること

- ・本人だけでなく、配偶者・同居の家族・別居の子・友人など、運転する可能性がある人を洗い出す
- ・運転者限定が実態に合っているかを見る
- ・年齢条件が、実際に運転する中で最も若い人に合っているかを見る
- ・別居の子や友人の扱いは、契約内容で確認する

後悔しやすい例

普段は夫婦しか乗らないからと限定を付けていたが、帰省した子どもが運転して事故を起こした。あるいは、長距離運転で友人に交代してもらった。こうした、たまにある運転も補償の対象かを事前に確認しましょう。

判断のコツ - 保険料を下げるために条件を狭くするのは有効です。ただし、一度でも運転する可能性がある人を対象外にしていないかを優先して確認しましょう。

2. 相手への賠償は、対人・対物ともに十分ですか？

事故で相手をケガさせた場合は対人賠償、相手の車・建物・電柱・積荷などを壊した場合は対物賠償で備えます。大きな事故では賠償額が高額になる可能性があるため、一般には対人・対物ともに無制限で

設定することが基本です。

確認すること

- ・対人賠償が無制限になっているか
- ・対物賠償が無制限になっているか
- ・対物超過修理費用などの特約が必要かを確認する

なぜ重要なのか

自賠償保険だけでは、相手方の人身損害しか補えず、限度額もあります。相手の車や店舗、ガードレールなどの物損は対象外です。高額な車との事故や、店舗の営業に影響する事故では、想像以上に大きな賠償責任が発生することがあります。

判断のコツ - 保険料を見直したいときも、対人・対物賠償の上限を下げる前に、運転者条件や不要な特約の重複を確認の方が現実的です。

3. 自分と同乗者のケガに、人身傷害で備えていますか？

人身傷害保険は、契約内容に応じて、運転者や同乗者が事故で負ったケガによる損害を補うための補償です。治療費だけでなく、休業による収入減なども関わるため、保険金額は家族構成や収入、他の保険とのバランスを見て考えます。

確認すること

- ・人身傷害の保険金額はいくらか
- ・家族を乗せる機会や、通勤・送迎・長距離運転の頻度に合っているか
- ・契約車に乗っているときだけが対象か、歩行中なども対象になるタイプか
- ・搭乗者傷害保険との違いを、名称ではなく支払条件で確認しているか

判断のコツ - 自分がケガをして働けない期間が出たら、家計にどのくらい影響するかを考えてみましょう。家族の送迎や旅行で同乗者が多い人ほど、確認する価値が高い補償です。

4. 愛車に車両保険を付けるか、自己負担を理解していますか？

車両保険は、自分の車が事故などで損害を受けたときの修理費などに備える補償です。新車・高額な車・ローンが残っている車では特に検討する価値があります。一方で、年式が古く車両保険金額が低い車では、保険料とのバランスを考える必要があります。

確認すること

- ・単独事故・当て逃げなども対象になる補償タイプか
- ・車両保険金額がいくらか
- ・免責金額、事故時に自分で負担する額が、無理なく払える金額か
- ・車両保険を使った場合の等級・翌年以降の保険料への影響を理解しているか

知っておきたいこと

車両保険金額は、購入価格ではなく、契約時点の車の価値をもとに設定されるのが一般的です。また、補償される事故の範囲は保険会社・商品によって異なります。

判断のコツ - 修理費または買い替え費用を、急に自分で出せるかで考えると判断しやすくなります。車両保険を外す場合でも、事故時の自己負担をあらかじめ想定しておきましょう。

5. 特約と事故後の支援は、生活に合っていますか？

最後に確認したいのが、事故の後に困りやすい場面を支える特約・サービスです。特約は、たくさん付ければよいわけではありません。自分の生活で起こりやすく、自己負担が大きい困りごとを優先して選ぶのがポイントです。

弁護士費用特約

もらい事故などで、相手方に損害賠償を請求する際の弁護士費用・法律相談費用を補償する特約です。自動車事故だけを対象にするタイプと、日常生活の事故も対象にするタイプがあります。

個人賠償責任特約

自転車事故や日常生活で、他人にケガをさせたり物を壊したりして賠償責任を負った場合に備える特約です。火災保険などに付いている場合もあるため、家族で重複していないかを確認しましょう。

ロードサービス

レッカーの無料けん引距離、バッテリー上がり、ガス欠、宿泊・帰宅費用などの条件を確認します。無料と書かれていても、上限や対象条件は保険会社ごとに異なります。

代車・レンタカー費用

修理中に車が必要な人は、補償される日数、事故・故障のどちらが対象か、利用条件を確認しましょう。通勤や家族の送迎で車が欠かせない人には、特に大切な確認項目です。

更新・見積もり前の1分最終チェック

☐	保険証券または契約内容画面を開いた
☐	実際に運転する人と、最も若い運転者を確認した
☐	対人・対物賠償が無制限か確認した
☐	人身傷害・車両保険の金額と条件を確認した
☐	弁護士特約などの重複と、ロードサービスの条件を確認した

最後に、各社の重要事項説明書・約款・補償内容を確認してください。補償の対象・支払条件・特約名は、保険会社や契約内容で異なります。

参考: 日本損害保険協会「自動車保険」 / 国土交通省「自賠責保険・共済の限度額と補償内容」 / 日本損害保険協会
そんぽ相談ガイド